

比喩写像における“領域”は単なる副作用である

—「YがXに襲われる」に関する比喩写像の成立条件—

1 はじめに

強い影響力をもつ**比喩写像理論 (MMT)** [4, 5] に対し [3] は [1] の**(意味) フレーム**の観点から以下のような問題点を指摘した:

- (1) MMT の **領域 (domains)** の定義は曖昧だが、「写像の単位はフレームである」と言い直せば、より制約された定式化が可能となる
- (2) MMT は比喩現象の記述的一般化以上のことではなく、比喩が存在する理由を説明するためには無力であるが、それは次の**上位スキーマ化モデル**で説明できる:
あるフレーム F (源泉) から別のフレーム G (標的) への比喩写像が成立するのは、 G が字義通りに解釈され、それを次の条件を満足する H が媒介にするとときに限る: (i) フレームは (意味) 素性の組織化としての**スキーマ**で、(ii) $F[+f]$, $G[-f]$ に素性値 f の対立があるとき、対立の中和された $H[\pm f]$ が F, G の**上位スキーマ**である

[7] は $A: "X \text{ is a } \{ \textit{wolf}, \textit{snake}, \textit{shark} \}"$ の比喩の使い分けに関して、次のことを明らかにした:
三つの文は X の行動の潜在的な被害者 Y にとって X が危険 (人物) であることを知らせるという点では共通しているが、特定され対処法が暗示されている危険性のタイプはそれぞれ異

なる。危険性の暗示は、それぞれの動物がヒトに異なる仕方で攻撃を加えるという知識に基づくもので、危険性の状況的知識 = フレームを利用している

[7] の結果は、 A の存在理由の解明と同時に、次の**比喩写像の保守性の仮説**の定式化の動機となった:

- (3) 比喩写像の成立条件は事例ベースで保守的なものであり、MMT で示唆されて来たよりも写像は体系性が低く、起こりにくい

この発表の目的は、意味フレーム分析の結果 [2, 3, 6] に基づいて比喩写像への制約を特定し、(3) の証拠を追加することである。

具体的には §2 に示す意味フレームの分析 (図 2) と多変量解析 (MDS) の結果 (図 1) に基づいて、本発表では次の三点を指摘、あるいは主張する:

- (4) **比喩写像の基本単位は意味フレームであり領域ではない**. この意味で MMT は比喩の成立条件に関して過度の一般化を行っている
- (5) フレームを単位として見た場合、「襲う」に關係する比喩写像の一部には**源泉と標的に關する非対称性が生じていない**
- (6) 「襲う」の比喩写像に關する限り、**源泉が〈基本的な経験であるか〉より〈自然的な現象であるか〉の方が重要である**.

従って経験基盤主義 [5] の成立は自明ではなく「基本的な経験とは何か」という問題が残る

1.1 (5) に関する補足

写像の非対称性は MMT [4, 5] の重要な洞察の一つだとされるが、それは一部 (MM 2) では成立していない。従って、それは無条件に妥当な一般化とは言えず、**非対称性の成立条件についての、より深い説明が必要とされる。**

次の (7) が〈(動物の) 縄張り争い〉を源泉とする比喩であるのに対し、(8) は F01,02: 〈(ヒトの) 勢力争い〉を源泉とする比喩である:

- (7) 商社 A は商社 B の縄張りに踏みこんだ
- (8) そのサルは別の群れの { 領地, 領土, 陣地 } に踏みこんだ

これは MM2, MM*2 に関する対称性を示す

もう一つ問題なのは、{ 領土, 領地, 陣地 } の三つの語で比喩性の程度が異なるという点である。MMT は定量的な理論ではないので、この種の比喩性の程度が表わせない

比喩性の程度 (の差) を表わすためには、語が (理想的な意味で) 本来の意味からズレている場合には常時 (微量の) 比喩性が生じていて、そのズレが一定値より大きくなると領域の違いと感じられると考える方が理に適っており、上位スキーマ化モデル [3] は、そのような効果を記述するためのモデルとして提唱された。

以上の (i) 写像の保守性, (ii) 条件付きの写像の非対称性の二点は、次のように仮定すれば、自然に説明できる:

- (9) a. 比喩写像 $M: S \rightarrow T$ は, S, T が常にフレームであるという点で、フレーム基盤の現象である
- b. M の逆写像 $M^*: T \rightarrow S$ は常に利用可能であるが, S, T の距離 $d(T, S)$

が閾値 d_k を越えると, M^* が成立しなくなり, この時に限り写像に非対称性が生じる

2 比喩写像の成立条件の特定

図 2 に示すのは「襲う」の階層ネットワークである [2]。比喩写像 MM1, ... が成立する箇所を紫 (順方向) と青 (逆方法) の破線で示している。

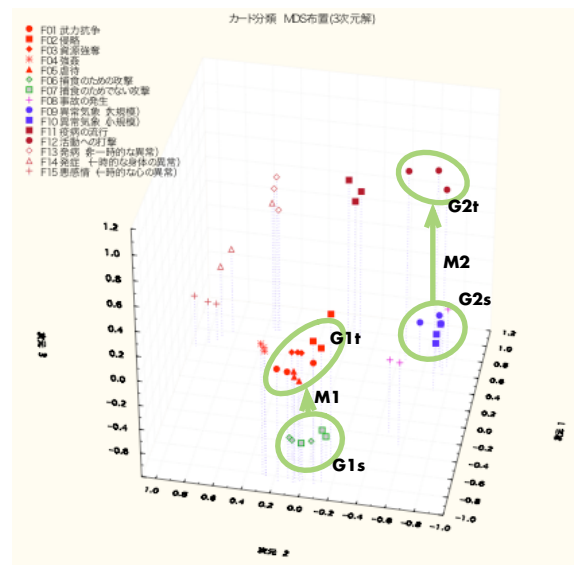


図 1 「襲われる」のカード分類課題の MDS 配置

この写像の成立条件は「襲われる」のカード分類課題 ([2, 6] を参照) 結果を多次元尺度法 (MDS) で解析した結果 (図 1) によって再現可能である。M1: G1s \rightarrow G1t と M2: G2s \rightarrow G2t の二つの比喩写像を緑の縁取りでマークした。

参考文献

- [1] Fillmore, C. J. 1985. Frames and the semantics of understanding. *Quaderni di Semantica*, 6 (2), 222-54.
- [2] 黒田航・中本敬子・野澤元. 2004. 状況理解の単位としての意味フレームの実在性に関する

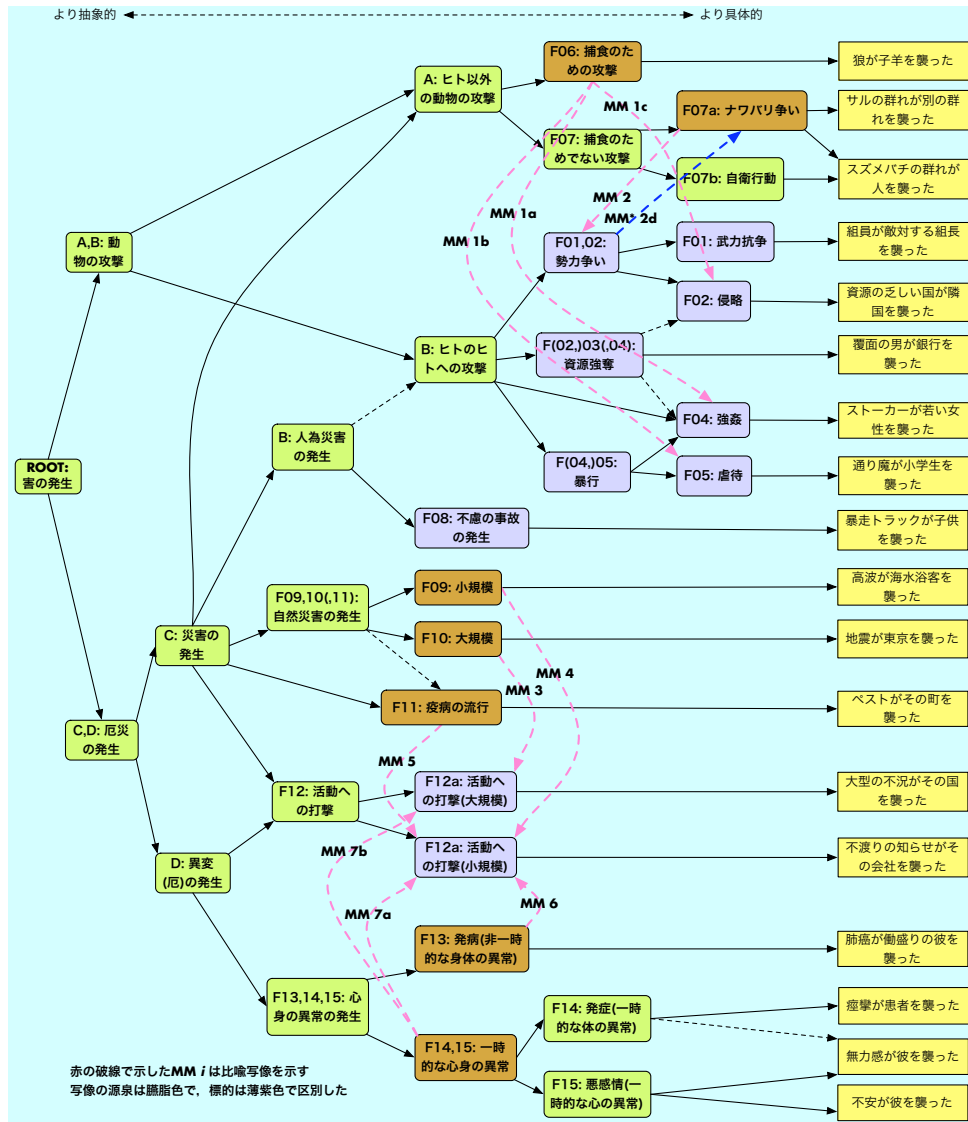


図2 「襲う」の意味フレームの階層ネットワーク

研究. 日本認知科学会第 21 回大会発表論文集, 190-1

[3] 黒田航・野澤元. 2004a. 比喩理解におけるフレーム的知識の重要性: FrameNet との接点 (COE 21 ワークショップ: 「メタファーへの認知的アプローチ」の口頭発表のための論文) [http://cls1.hi.h.kyoto-u.ac.jp/~kkuroda/papers/metaphor-and-frames.pdf]

[4] Lakoff, G. 1993. Contemporary theory of metaphor. In *Metaphor and Thought*, Ed. A. Or-

thony, 202-51.

[5] Lakoff, G., and M. Johnson. 1999. *The Philosophy in the Flesh*. Basic Books.

[6] 中本敬子・野澤元・黒田航. 2004. 動詞「襲う」の多義性. 日本認知心理学会第 2 回大会発表論文集, 38.

[7] 野澤元. 2004. メタファーと適応的行動フレーム. 「日本認知科学会第 21 回大会発表論文集」, 126-7.